



第 48 回九州アマチュア選手権競技

競技報告 (2018/ 5. 29-6. 1)

写真と記事 : M. Kikutake

7 アンダーの 281

ゆうき 古川雄大 (大博多) 3年ぶり2度目の優勝

5月29日から4日間、鹿児島県南九州市の知覧カントリークラブ(7059ヤ、パー72)で行われ、通算7アンダーの281で回った東海大九州3年、20歳の古川雄大(ゆうき、大博多)が3年ぶり2度目の優勝を飾った。

古川は初日首位に1打差3位タイと好スタート。2日目に5アンダー、67の好スコアを出して単独トップに立つと、以後は首位を譲らない快走。最終日(6月1日)は74とややもたついたものの、後続もスコアを伸ばせず、逃げ切った。最終日69のベストスコアを出した前回優勝の大阪学院大3年、20歳、葛城史馬(中津)は3日目の10位タイから追いついたものの連覇はならず、3打差、通算4アンダーの2位だった。

通算3アンダーの3位は沖縄・宮古総合実高3年、多良間伸平(17歳、ベルビーチ)でさらに1打差の4位タイに福岡・沖学園高3年、児玉章太郎(17歳、ミッションバレー)と宮崎・日章学園高1年、15歳の枝川吏輝(りき、グランドチャンピオン)の2人だった。

なお、大阪学院大4年、玉城海伍(22歳、カヌチャ)が第2ラウンドで66のコースレコードを出し、開催倶楽部からコースレコード賞が贈られた。



優勝カップを手にして
笑顔の古川雄大

芥屋GC(福岡)での日本アマに15人が出場権

鹿児島高牧CCの九州オープンに30人が出場資格獲得

この試合の結果、7月3日から4日間、福岡県糸島市の芥屋ゴルフ倶楽部で行われる2018年度日本アマチュア選手権競技には、通算4オーバー、292の14位タイまでの15人が出場権を得た。また、8月2日から4日間、鹿児島高牧カントリークラブで行われる2018九州オープンゴルフ選手権競技へは8オーバー、296までの29人と9オーバー、30位タイの3人のうちマッチングスコアカードで選ばれた1人の計30人が出場資格を獲得した。

大学勢が実力発揮

今大会には1、2次予選を通過した選手ら154人(欠場7人)が出場。梅雨入り直後の大会とあって天気が心配されたが、3日目までは曇り、微風の好コンディション。最終日は、前夜来の雨も上がり、晴れた中での熱の入った競技が繰り広げられた。

そんな中、初日は多良間、児玉の高校生コンビが3アンダーで首位を並走。これを前回チャンピオンの葛城や3年前の覇者、古川の大学生が1打差で追う気の抜けない展開になった。2日目は6バーディー（1ボギー）とチャージした古川が通算7アンダーで逆転首位。66の好スコアの前々回優勝の玉城が1打差2位タイに浮上した。通算12オーバー、156、80位タイまでの86人が後半の決勝ラウンドへ進出。

3日目は古川が手堅く70で回り、玉城がパープレーでその差は3打差に広がった。枝川が6バーディー、2ボギーの68とスコアを伸ばし、3位へ。最終日はこの3人が最終組となった。その最終日。古川が4バーディー、4ボギー、1ダブルボギーの74ともたついたものの、追う立場の玉城がバーディー1つだけの4ボギー、1トリプルボギーの78で7位タイへと下降、枝川もボギーが先行して75と乱れ、4位タイ。ただ1人60台の69で回った葛城が2位へと浮上したが、連覇には及ばなかった。



日本アマへ手応えを感じた選手権

“自分の世界”に自信を見せた古川雄大



ティーショットを放つ
古川雄大

「勝つことのうれしさを感じた大会。そのためには自分のゴルフをすることの大事さに気づかされた大会でした」。3年ぶりに2度目の栄冠を手にした古川は、こう振り返った。

2日目に単独トップに立つと、後続に3打差をつける通算9アンダーでの最終日。“安全圏、ではないが、実力、勢い、意地からみても逃げ切りは固いとみられていた。結果的にはそうなったわけだが、途中では伏兵たちの追撃に遭い、冷や汗をかく優勝でもあった。

前年優勝の葛城と前々回Vの玉城。3打差スタートの玉城は古川が後半の11、12番で連続ボギーとした際には1打差までに迫った。しかし、その後は2ボギー、1トリプルボギーで脱落。そして、葛城。8打差の10位タイで迎えた最終日。古川が前半2バーディー、1ボギー、1ダブルボギーとスコアを1打落とすのに対し、葛城は2バーディーで、その差を3打縮めた。後半、古川の連続ボギーをしり目に葛城は13番バーディーでその差は2打差までに追いついた。残りホールから見れば逆転の可能性は残った。

しかし、古川は「うまく気持ちを切り替えられた」。「相手もうまいプレーをしてくる」と自分に言い聞かせ、集中力を高めて14、15番と連続バーディーを奪い、自らの力で決着をつけたのだ。

福岡第一高3年の15年大会で逆転初優勝。しかし、東海大九州へ進学してからは1、2年時とも3位。「勝てなかった」2年間は苦しかった。勝ち方を探していた」という古川。初優勝したのは「僕がいいプレーをしたからではなかった。やはり自分のプレーをしないとダメだと気づかされた」。たどり着いたのは「自分の世界」に入

る大事さ。その直接のきっかけになったのは、5月に行われた九州学生連盟春季リーグ戦の最終戦（かごしま空港36）で日本経済大に逆転優勝を決めたこと。「相手の顔色をうかがったり、自分の世界に入りきれていなかった」。それに気づかされたのが、今回の優勝に結びついたのである。

「すべて日本アマに向けて努力してきた」という古川。高校時代にはおろそかにしていた体作りも、大学に入り体幹強化などのトレーニングに取り組み、ゴルフの筋肉を鍛えた。その結果、飛距離は20㍍アップと大きなアドバンテージを得た。5度目の出場になる今年の日本アマは地元の芥屋GCが舞台。「よく知ったコースだし、地の利もある」とアマ日本一の座、そしてその先に続くプロへの道を見つめている。



写真は左から葛城史馬、多良間伸平、児玉章太郎、玉城海伍の各選手

葛城史馬（難コースを攻略して2位） ショットはあまりよくなかったが、グリーンは4日間で一番速く、タッチがあった。優勝争いをしたかった。（日本アマの）芥屋は初めて。高麗は嫌いじゃないし、悪いなりにここまでやれたのは日本アマへの自信になります。

多良間伸平（通算3アンダーで3位） 4日間、何とか頑張れた。日本アマは初めての昨年が予選落ちだったので、今回は頑張ります。高麗は沖縄で慣れていますので、苦にはなりません。

児玉章太郎（通算2アンダーで4位タイ） 3番パー3で1オン、4パットして、6番までに4オーバーとなった時はどうなるかと。日本アマ出場は初めてで、芥屋も初めて。練習に行きます。

玉城海伍（1番バーディーのあとは4ボギー、1トリプルボギーの78で7位タイ） ドライバーがフェアウエーに行ってくれない。しかし、ショットが悪くてもパットが良ければカバーできる、と、少しは手応えも。あと1か月、芥屋のグリーンは苦にはならない。調整して（日本アマを）迎えたいです。